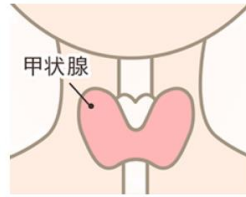


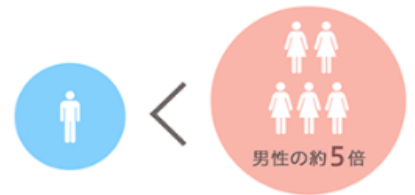
甲状腺の病気について



甲状腺とは

甲状腺はのどぼとけ下にある、蝶のような形の臓器です。小さな臓器ですが、私たちの体の代謝に関わる働きをしているとても大切な臓器で、**甲状腺ホルモン**を作り分泌しています。甲状腺ホルモンは、カラダ全体の新陳代謝を促進する働きがあり、通常多すぎたり少なすぎたりしないようバランスが保たれていますが、甲状腺の働きに異常が現れるとそのバランスが崩れてしまいます。甲状腺ホルモンの異常による病気は、全身に様々な辛い症状が現れますが、どこが悪いのかははっきり判らず“**なんだかいつも調子が悪い状態**”になります。そして、なかなか病気とは気づかない人も少なくありません。

甲状腺の病気は**女性**、それも**20代から50代**の幅広い年代にたいへん多い病気です。甲状腺自己抗体が原因の「自己免疫疾患」で代表されるものに**バセドウ病**や**橋本病**があります。「自己免疫疾患」とは、免疫系が自分の細胞を異物だと認識して攻撃してしまうことで症状が引き起こされる病気のことです。また、このような甲状腺の病気は、月経周期の異常や不妊・流産の原因になることもあります。



甲状腺疾患でよくある症状

甲状腺機能亢進症で現れる症状 (主にバセドウ病)

- 脈が早い
- 体重減少
- 手足が震える
- 発汗増加と暑がりである
- 眼球がでてくる
- 疲れやすい

甲状腺機能低下症で現れる症状 (主に橋本病)

- 気力がない
- 疲れやすい
- むくみ（眼・顔・全身）
- 寒がり
- 体重増加
- 眠たい

勘違いされやすい甲状腺の病気

- 多彩な症状により「自律神経失調症」「更年期障害」
- だるさや無気力により「うつ病」
- 動機息切れにより「心疾患」
- むくみにより「腎臓病」
- 物忘れやボーツとしていることにより「認知症」



このように他の病気と間違われることも甲状腺の病気の特徴です。

甲状腺に異常があるにも関わらず、なかなか病気とは気づかずに「ちょっとした不調かな？」と済ませてしまいがちな症状も…。症状がある場合は、かかりつけ医やお近くの内科・外科・産婦人科を受診して**甲状腺の病気がないか**を調べましょう。

少しでも気になることや心配なことがあれば、まずは医療機関へ相談してみてください。

甲状腺の検査

●超音波検査（エコー）

腫れ方やしこりの形状を観察します。首にあてるだけで痛みを伴わず手軽に検査が可能です。

●血液検査

「甲状腺ホルモン(FT3, FT4)値」と、それを調節している「甲状腺刺激ホルモン(TSH)値」を測ります。病気の原因となっている「甲状腺に対する抗体」の量も調べます。甲状腺ホルモンの濃度に異常があるとコレステロールや肝臓の数値にも異常が現れます。また、貧血になる場合がありますので、それら一般の血液検査も行われます。

甲状腺の治療

●甲状腺機能亢進症（バセドウ病）の治療

服薬治療が基本となりますが、病状によりほかの治療方法が選択される場合もあります。

アイソトープ治療 (放射性ヨウ素)

アイソトープが入ったカプセルを内服し、甲状腺ホルモンの分泌量を減らします

手術

甲状腺の一部または全部を取り除きます
術後に甲状腺ホルモンを補う薬の服用が必要となる場合もあります

お薬

抗甲状腺製剤（甲状腺ホルモンの合成を抑える薬）を使って、甲状腺ホルモンの合成と分泌を抑えます

●甲状腺機能低下症（橋本病）の治療

お薬

甲状腺ホルモン剤を内服し、不足している甲状腺ホルモンを補います
1日1回の内服で済みますが、多くは何年間も内服が必要となります



甲状腺腫瘍

甲状腺にできたしこりを**甲状腺腫瘍**といいます。

甲状腺腫瘍には良性と悪性があり、注意しなければならないのが悪性腫瘍ですが、悪性腫瘍（甲状腺がん）は、甲状腺のしこりの5%と言われています。

良性腫瘍の代表は、**濾胞(ろうほう)腺腫**。甲状腺の中に水分が溜まった構造物が現れます。腫瘍が大きくなりえない限り、多くの場合は経過観察となります。

悪性腫瘍（甲状腺がん）にはいくつかのタイプがあり、**乳頭がん**、濾胞がん、低分化がん、髄様がん、未分化がん、血液がんの一種である悪性リンパ腫が含まれます。

このうち、最も多い約90%は**乳頭がん**です。乳頭がんは、増殖速度が非常に遅いがんなので、他のがんよりも治療効果が現れやすいのが特徴です。

甲状腺腫瘍は、甲状腺の機能にほとんど異常がないため自覚症状はなく、知らない間に徐々に大きくなり、のどの一部が腫れるなどしてから腫瘍に気付くことが多いです。

●しこりがある時の検査

甲状腺腫瘍は、良性か悪性かきちんと鑑別する事が絶対必要です。

超音波検査は、診察時にその場ですぐに行えます。また、必要ならば穿刺吸引細胞診も行います。これは細い注射針を刺してほんの少しの細胞を採って、顕微鏡で見ます。普通の注射と同じでそんなに痛くはありません。これにより1cm以下の小さなしこりでも調べられるようになりました。



●甲状腺がんの治療

甲状腺がんの治療は、血液がんを除けば、**手術による摘出**が基本です。手術の前後には、放射線治療やホルモン療法が併用されることもあります。

また、若い女性の場合には創が衣服に隠れる内視鏡補助下での手術も行われます。

早期に発見すれば、多くの甲状腺がんの10年生存率は約95%と良好で、通常の生活に戻ることが可能です。

自覚症状がないために放置しがちですが、悪性腫瘍の場合もありますので、しこりを発見したらきちんと甲状腺専門病院にかかり、検査を受けましょう。